



Welcome to 研究室&ゼミ

国際学部 国際社会学科 倪永茂 研究室

● 学生から

● 日本のアニメやドラマが好きで、中国の大学では日本語を専攻しました。いろいろな大学を調べた「3C (Challenge, Change, Contribution) 精神」を知り、私自身そういう人間になりたいと思いましたし、中国出身で情報ネットワークを研究している倪先生のもとで「異文化適応におけるSNS (ソーシャルネットワーキングサービス) の役割」について研究したいと考え、宇大で学びたいと思いました。将来、日本企業で働きたいと思っています。



国際社会研究専攻 1年 霍達



● 宇都宮市と姉妹都市のチチハル市のチチハル大学日本語学科の出身で、交換留学生として宇大にきました。私の研究はオンラインを活用した日本語学習です。中国に戻って日本語教師になることが目標ですが、コンピュータの利用率は高く、どんな仕事についても、この研究室で学んだことを活かせると思います。私の名前は、山口百恵さんの大ファンである母親がつけてくれました。私も日本が好きです。

同2年 山口百恵

● 中国・内モンゴルの広い草原の中にある大学の出身で、モンゴル人です。私より半年先に宇大に留学し、現在は博士課程2年の妹から話を聞き日本に興味を持ち、その時から日本への留学を目指し日本語を学び始めました。内モンゴルから日本の大学に留学する学生はとても多いです。前からITに興味があって、この研究室ではインターネットショッピングや買い物代行ビジネスなどネットを利用した日中間の商取引について調査研究しています。



同2年 胡祥林

● 研究室概要

インターネットが社会のインフラになり、PCや携帯等のコミュニケーションツールによって世界がフラットになりました。本研究室は情報科学、コミュニケーション学、社会学等多くの視点からこの情報社会を見つめようとしています。研究テーマは学生一人ひとりが自由に設定し、学際的立場で情報社会で起きている問題について考え、その要因を分析し、影響を評価しています。



● 教員から

● 私は1980年代に中国から宇都宮大学工学部電子工学科 (現電気電子学科) に留学し、卒業後東京工業大学の大学院に進み、博士号を取りました。91年に宇大に教員として招かれ教養部 (国際学部の前身) で情報関係を教えていました。もともとは理工系ですが、インターネット、コンピュータの社会への影響を中心に文系の学生でもできる研究を心がけてテーマを選べるようにしています。

いまネット社会で問題になっているのは、セキュリティの問題です。特に、多くの人が使っている携帯は、知らぬうちに自分の個人情報が入り込んでしまっているという大きな社会問題になっています。これは大きな研究テーマで、この研究室でも、これまで何人もの学生が研究テーマに選んでいます。

日本ではこれから「マイナンバー制度」が導入されようとしていますが、個人情報が漏れてしまえば大変です。特に日本人はプライバシーに気を遣う国民です。「便利」、あるいは「自由」ということに対しては必ずリスクを伴うものです。マイナンバー制度は社会にどう影響を及ぼすのかを研究し、リスク回避の方法をきちんと考えていかなければいけないと思います。



日中関係は、いま、良い状態にあるとは言えませんが、中国の若者は小さいころから、アニメやテレビなど日本の文化や商品に日常的に接していますから、日本への憧れはやはりあると思います。宇大の留学生の約6割は中国からです。学生に対しては、勉強も大事ですが、ふだんから社会問題に関心を持ち、改善するために何をすべきかを考えてほしいと思っています。答えは教科書の中にはありません。自ら考える姿勢が大切なのです。

倪永茂 教授

● 授業概要

耕うん、灌がいや排水、様々な施設構造物の設置等、農耕地の利用・設計・施工においては、農地工学や土質力学、土壌物理学といった知識を駆使します。同時に、土壌の持つ保水性や透水性、変形特性等の物理的・工学的性質を表す実測値を必要とします。「土壌・土質実験」では、その測定手法を修得し、土地利用策定・設計・施工の能力を養います。



Welcome to 授業 農学部 農業環境工学科 「土壌・土質実験」



● 学生から

● 机上の講義ではわからなかったことが実験、実習することで理解が深まってくのように感じています。将来、環境保全の仕事に携わることができればと考えていますが、この授業では土壌の成分や仕組みを理解することができて、その知識・技術は植物を育てていく上でも役に立ちますし、植物の問題なども含めて環境保全のためには何がわからないか、何が必要なのかを理解できるところが面白く感じます。



農業環境工学科3年 野中優衣



● 実験結果は机上で学んだことと少し異なってくるのですが、予想と異なることが理解を深めることにつながるし、おもしろいところです。飯山先生はユニークな方で、授業はとてもわかりやすく楽しく学んでいます。農家で農作業の手伝いをしていますが、授業で得た知識が活かされています。田んぼの状態を見て改良すべきところに気づくようになりました。将来、農業を環境の面から良くしていくような仕事に就きたいと考えています。



同3年 二木寛康



● 今回ご紹介した授業の様子が動画でもご覧いただけます。

http://www.utsunomiya-u.ac.jp/u_tunes/index.html

● 教員から



● 土壌・土質実験では、土を扱った実験の数々を学生に取り組んでもらっています。土といってもいろいろで、その種類のことではなく土の持っている働き、機能を数字にして評価する技術の習得に学生諸君と一緒に励んでいます。

そういう技術が役に立つところは、どこでしょう。農学という面では、植物、動物の命を育む土壌で水やいろいろな物質が動く速さや量を数値にして評価し、畑の作物が元気に育つことに役立たせることを、まず目標にしています。

他に、もっと人間に近いところでは地滑り対策です。降った雨の量や地盤の締め具合、そういうものを人間がきちんと数値にして、その状態を知っておくということが大事になります。そうしたものを測る方法を勉強しているのが、この授業です。

土いじりを最後にしたのは、いつでしょう。小学校や幼稚園のころだったかもしれません。街に住んでいるとコンクリートの上で生活することが多く、土の上を歩くということは少ないかと思いますが、ぜひ、我々の食べ物の由来というものをよくよく考えてみてください。ほとんどのものが土から来ていることに気づくでしょう。

飯山一平 准教授